

ポンプ場処理能力 55mm/h を超える豪雨が続けば、浸水被害は今後も起こりえるものです

「放送が建物内でも聞こえる」防災ラジオの導入を 小川議員

昨年10月13日 豪雨時の放送 「何を言っているのか、わからなかった」

共産党議員団は、「町の放送が聞こえにくい。何とかして」という要望をいただいて、これまで町当局にたいして、すぐにでも導入できるアナログ式の防災ラジオの導入を求めてきました。町当局は「防災行政無線も将来デジタル化になるので、アナログラジオの導入はできない」としてきました。台風19号による豪雨の最中は、町民のみなさんから「何を言っているのかわからなかった」と多くの苦情をいただいています。

こうした課題を解決するため大阪

ジェイコム防災情報サービス（FMラジオ）導入など

検討していきたい 町当局

高槻市は、ジェイコム防災情報サービスの提供を開始しています（昨年8月から）。高槻市は、特殊な変換器を使いアナログのまま行っていますが、変換器の製造が終了しており、在庫もないため、本町にはアナログのまま導入

することはできません。しかし現在、田尻町は防災行政無線のデジタル化に取り組んでおり、防災行政無線を補完するジェイコム防災情報などの体制を検討していきたい。



ジェイコム防災情報サービス 受信端末機（FMラジオ）

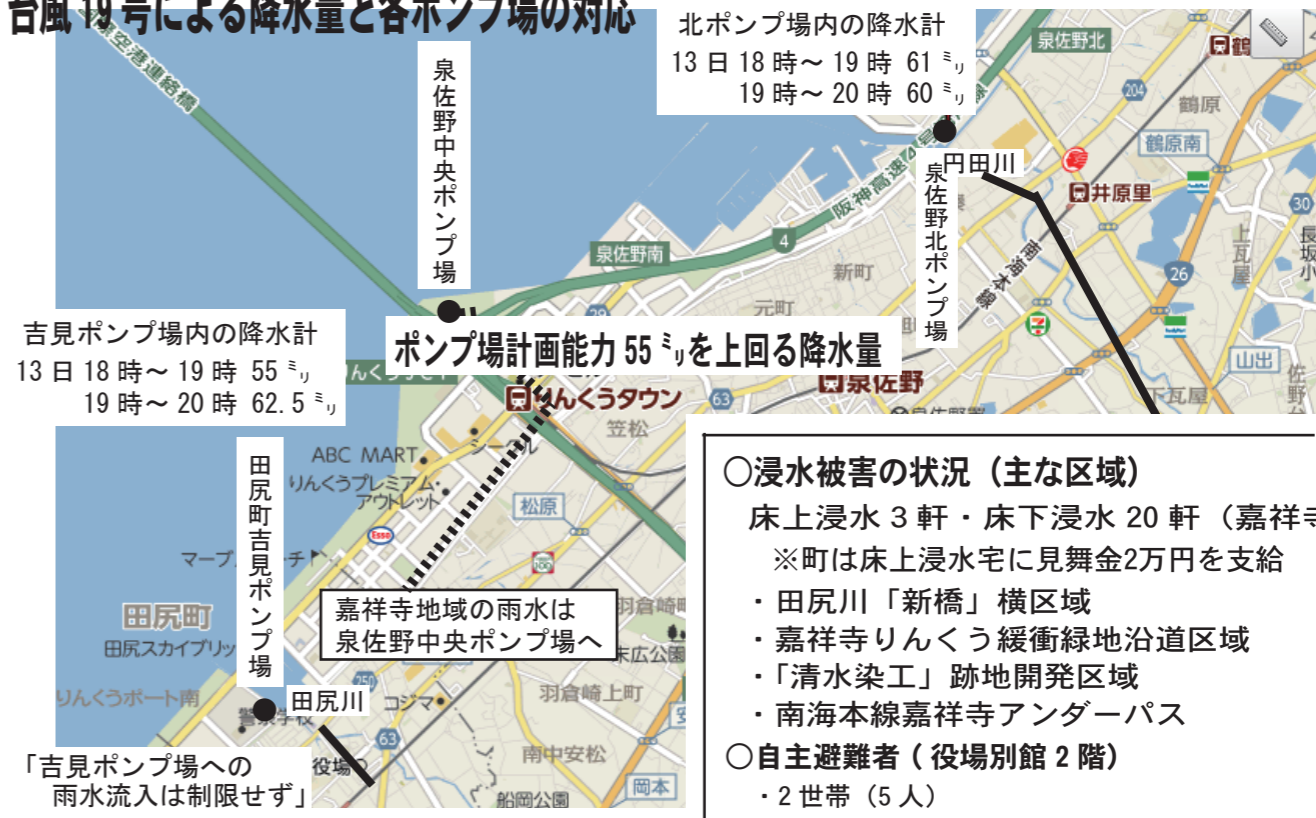


泉佐野市と田尻町の沿岸市街地地域は、台風や高潮の際に放流先となる大阪湾の水位より地盤が低く、自然排水ができずポンプによる強制排水が必要な区域となっています

台風19号襲来、昨年10月13日夜起こった浸水被害の原因

「泉佐野中央ポンプ場への雨水流入を制限したことによる」
台風19号による降水量と各ポンプ場の対応

ポンプ場破損の被害をさけるため



泉佐野中央ポンプ場を視察

町議会災害対策特別委員会（議員10人全員で構成 委員長 小川、副委員長 東）は、昨年12月25日に泉佐野中央ポンプ場を視察しました。

参加議員は、小川・東・吉開・高木・大門・坂口の6名。泉佐野市からは、下水道局長以下幹部職員らに対応いただき、実際にポンプを稼働させるなど、克明にご説明いただきました。

この視察では、豪雨時の流入制限は、瞬時に判断が求められる、ポンプ施設が破損すれば、全機能が停止すること。排水処理機能に支障をきたすため、河川や道路にゴミを捨てないこと。国の施設整備補助や排水処理などすべての基準になっている1時間の最高雨量55ミリでは、間に合わなくなっており、引き上げが求められること。豪雨災害を予測して逆算での対応が大事なことなどが語られ、委託する田尻町としては信頼を強める視察となりました。